



第24回日本骨粗鬆症学会

The 24th Annual Meeting of Japan Osteoporosis Society

モーニングセミナー1

二次骨折予防のための 骨粗鬆症治療 ～ABCから最新情報まで～

日時

2022年9月4日(日) 8:30～9:30

会場

第1会場(大阪国際会議場 10F 会議室1003)

本セミナーはWEBによるライブ配信でもご視聴いただけます。

詳細は学会ホームページをご確認ください。

<https://site2.convention.co.jp/jos2022/>

座長

酒井 昭典 先生

産業医科大学医学部 整形外科学
教授

演者

萩野 浩 先生

鳥取大学医学部保健学科
教授

[単位取得について]

日本整形外科学会の1単位が取得できます。(受講料1講演1,000円)

・ 専門医資格継続単位 必須分野: 4.代謝性骨疾患(骨粗鬆症を含む)

※日整会単位を取得するためには、予め受講申込が必要です。

詳細は学会ホームページ <https://site2.convention.co.jp/jos2022/> をご確認ください。

教育研修講演受講のためだけに入场される場合にも、学会参加費は必要です。

・ 会場の日本整形外科学会受付で1単位につき、1,000円をお支払いのうえ、受講手続きをお取りください。

・ 途中退場された場合は単位は認められませんのでご注意ください。

萩野 浩 先生

鳥取大学医学部保健学科 教授

二次骨折予防のための骨粗鬆症治療 ～ABCから最新情報まで～

わが国は1970年に高齢化社会に、1995年に高齢社会に、そして2007年に超高齢社会となり、その後も高齢者人口の割合が増加している。この間に脆弱性骨折患者数は増加してきたが、今後も2040年頃まで増加が続く。一方で、大腿骨近位部骨折の性・年齢階級別の発生率は、過去には経年的に上昇していたが、2010年以降はプラトーとなり、低下傾向も観察されている。この骨折発生率の低下には近年の骨粗鬆症治療薬の進歩が寄与したと考えられている。脆弱性骨折例では骨折発生リスクが高まる。骨折例はその治療が医療機関で行われているため、二次骨折予防のための介入を開始することが容易である。そこで二次骨折予防を目的とした骨折リエゾンサービス (FLS) が、近年多くの施設で取り入れられてきている。鳥取県西部の多施設で実施したランダム化比較試験では、FLS実施群で骨密度測定率や骨粗鬆症治療開始率が有意に高かった。2022年度診療報酬改定では大腿骨近位部骨折例での早期手術と2次性骨折予防が新たに評価された。この改定によって、FLSによる2次性骨折予防が急速に普及すると期待されている。骨粗鬆症治療薬のなかで、大規模臨床試験で骨折抑制効果が得られているのは、窒素含有ビスホスホネート薬 (BP)、抗ランクル抗体薬、選択的エストロゲン受容体モジュレータ (SERM)、副甲状腺ホルモン薬、抗スクレロスチン抗体薬、活性型ビタミンD₃薬 (エルデカルシトール) の6種類の薬剤である。骨粗鬆症治療ではこれらの中から薬剤を選択するのが基本である。治療薬の選択は治療対象患者の骨折リスクや年齢に基づく。逐次投与に関する知見も、近年、集積され、治療目標に達しても、休薬に当たって必ずBPを一定期間投与する必要がある。BPには経口剤と静脈投与製剤があり、それぞれ特徴を有する。MOVEMENT試験では静注製剤であるイバンドロネートを、それまで経口BPで腰椎骨密度の増加が認められなかった例に投与し、骨密度増加が観察された。また最近、イバンドロネートをテリパラチド投与例に逐次投与したMONUMENT試験の結果が報告された。それによれば、テリパラチドを投与された骨粗鬆症患者において、イバンドロネートの静脈内投与により、骨密度が増加し皮質骨の微細構造が改善した。本講演では二次骨折予防の重要性とその課題解決のための骨粗鬆症治療について、基本的な知見を解説し、最新の臨床データを報告する。